

## 研修レポート 1月

志水慈子

明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしく願いいたします。



ホームステイ先の飼い犬

今年は戌年ですが、メキシコでは日本の犬猫派閥で考えると圧倒的に犬派に軍配が上がります。多くの家庭で犬を飼っており、メトロ（地下鉄）やバスはもちろん、カフェやレストランもペット同伴可のところも多いです。バッグのチャームかと思ったら本物の小型犬が顔をのぞかせていたり、クラッチバッグを抱えるかのごとく小脇に犬を抱えていたりとメキシコ人の犬への愛を感じます。

野良犬も多いですが人を襲うような凶暴な様子ではありません。因みに猫カフェはだいぶ混雑していたので、猫派も少なからずいるようです。ただ猫よりも公園などにいる野生のリスのほうが多く見かけます。



### I メキシコの文化（対人関係について）

メキシコ人の対人関係についていえば、人と人の距離が近いということに尽きると思います。Hola! から始まり、元気かい？と確認しつつハグして頬にキスする習慣があります。男性同士の場合のみ、お互い平手でパンッと叩いて、グーの手の形でコツンとぶつけるのが挨拶です。これは道端で知り合いに会ったら、または出勤して同僚にあったりしたら必ず行う習慣で、例え通路が通れなくなって後ろが詰まっても店で客が並んでいても実行されます。家族間でも繋がりが非常に強く、一人暮らしする学生は毎週のように帰省したり、子供が大きくなっても一緒に家族旅行にいたりすることも多いです。公園では「可愛い息子よ」といいながら、見た目は険しい顔の父親がせっせと子供の世話をし、その子煩惱ぶりがみてとれました。日本では核家族化や近所付き合いをせずプライベートを重視する風潮へ変わってきていますが、メキシコは今まで訪れたどの国よりも人同士の繋がりが強いと思いますし、日本とメキシコを比較することはできませんがこのような社会も大変すばらしいと思います。

また、メキシコ社会では子供、高齢者、女性が大切にされていると強く感じました。バスやメトロ（地下鉄）の中でも高齢者や子供が入ってきたら優先席如何問わず、すぐに近くの人が席を譲ります。席を譲らない或いは高齢者に気づいていない人がいると、周囲の方が「座らせてあげて」と注意していました。私自身も重い荷物を持って乗車したときに譲っていただいたこともありますし、しばしばメトロのドアが何のアナウンスもなく急に閉まる時は近くの人たちがドアに挟まれないよう抑えてくれることも多いです。

## II メキシコの交通事情

日本と同様、朝夕の通勤ラッシュは激しい渋滞に巻き込まれます。メトロも路線によっては数本見送らないと乗車できません。メキシコ人は人に優しいと前述しましたが、ハンドルを握ると豹変シクラクションの音をまるで競争なのかと思うほど鳴らします。メキシコに来て車同士の交通事故を既に3回目撃しました（幸いなことにどちらも負傷者はいませんでした）。人口が多いためいかにラッシュの渋滞を減らせるかが課題であると思いました。

### メトロ（地下鉄）

5ペソの一律料金で12路線どこでも行けます。前方3車両は女性と12歳以下の子供の車両ですが、男性もちろほら乗車しています。大抵車内には物売りや大道芸人がやってきては商売をしたりパフォーマンスに対するチップを貰ったりして一駅で次の車両に移るといふのを繰り返しているため、常に騒がしいです。新しい路線には車内アナウンスがありますが普通はないので駅に着くと駅名を確認しなければなりません。ですが駅にはそれぞれ固有のマークがあり、文字が読めない人でも駅が分かるという面白い工夫があります。これは識字率が93.4%であることや、国内で複数の言語が使用されていて表示を一般化できないことによるのではないかと思います。



### ペセロ（小型バス）

市内を縦横無尽にはしっていて本数も多く非常に便利です。バス停がないことも多いので周りの様子を見て乗る場所を確認します。基本的に運転手はなにも言わないので、初めて行く場所だとどこで下りればいいのかわからないという状況もよく起こります。また、バスの中は完全に運転手の趣味で出来ているので、一面ステッカーだったり、カエルグッズだったり、最新の音楽機器が置かれて運転手や客が歌っていたりと乗ってからの楽しみです。メキシコは速度制限のために道路に段差があるところが多く、激しく揺れます。メトロよりも現地の人々が買い物や通学に利用することが多く、のんびりした雰囲気です。



### メトロブス

メトロよりも短い間隔で駅があり、切符を売っていないのでICカードを購入する必要があります。ドアが無音で高速で閉まるためドア近くは本当に危険です。残念ながらメトロと同様スリも多いようです。大概2車両で車内はとても清潔でした。

他にも、トロリーバスという架線から電力をとって動く車両があり（広島路面電車のバスバージョンのような外見）、昔日本の黒部ダム線の車両を譲渡されたこともあるそうです（現在は使われていません）。設備投資が大きいことや折り返しが不便なことなどの短所はありますが、地形的な理由もあり空気が汚染されやすいメキシコシティにとって、トロリーバスは排気ガスを出さないうえ騒音、振動も少ないため非常に重宝されてきたようです。

## 今月のメキシコ料理

### ④ロスコン・デ・レジェスのパン



1月6日東方の三賢人（Reyes Magos）の日には、王冠の形をした菓子パンを食べます。中にはソプレサ（陶器の人形：今はプラスチックが多い）が入っています。メキシコではソプレサに当たった人は1年間幸せで、その人は2月3日には周りの人に「幸せのおすそ分け」という意味を込めて

タマーレスを配る風習があるそうです。パンの上にはドライフルーツとクッキー生地が乗っていて、最近ではパンだけでなくケーキの場合もあります。

その日は9人で2キロのパンを食べました。順々に好きな部分を切り分けます。パンの中身に興味津々で食べていると、なんと私のパンから人形が出てきました！この1年幸せに過ごせそうで良かったです。（写真右；白い人形がソプレサ）



## 今月のメキシコ観光地

### ⑧織物博物館



オアハカ州を中心にメキシコ各地の刺繍や織物などが展示され、子供にも分かりやすく染色方法や織り方が説明されていました。例えば羊毛染色に用いられるコチニール染料は、サボテンの葉につくカイガラ虫を潰すと鮮やかなルビー色がでる性質を利用して使います。これに媒染によっては赤や紫、ピンク、灰色系の色に変えることもでき、織物の色合いを



より複雑にしています。村ごとにデザインが違うため、服の模様を見ればどこの出身かわかるという先住民が多く居住するオアハカ州。昔ながらの伝統技術について詳しくまなぶことができます。

